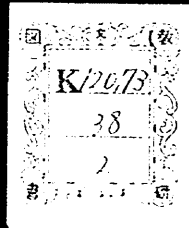


吉田信太郎作曲
定國尋常小學校讀本唱歌
下



K 120.73

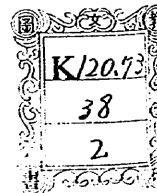
38

2

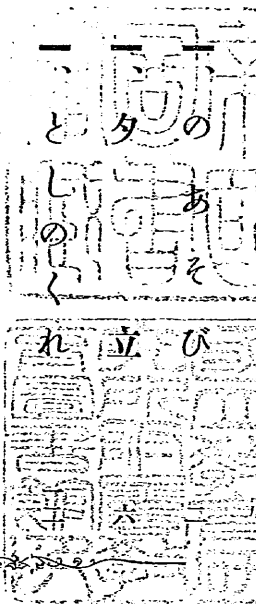
吉田信太作曲

國定尋常小學讀本唱歌下

東京 郁文 舍



定製 小學讀本唱歌 下卷 三、四年用科 目次



一、軍	一、燈	一、春	一、夕	一、の	一、た
		の	の	あ	り
人	臺	遊	れ	立	ゑ
			び	宮	色
二七	三三	一八		寇	紙
一、わ	一、新	一、日	一、北	一、元	一、た
が	聞	本の	白		り
帝	紙	景色	川	寇	ゑ
國			宮	九	四
二九	二五	二	一五	九	四

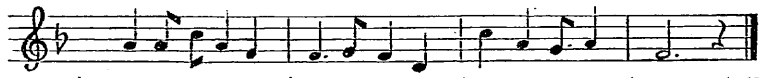
明治 38 6 1 丙寅

のあそび

へ調四拍子



	5	6	5	3	1	5	6	5	3	1	2	2	1	2	3	-	0
一	ハ	ル	ガ	キ	ク	ハ	ル	ガ	キ	ク	ド	コ	ニ	キ	ク		
二	は	な	が	さ	く	は	な	が	さ	く	ど	こ	に	さ	く		
三	ト	リ	ガ	ナ	ク	ト	リ	ガ	ナ	ク	ド	コ	デ	ナ	ク		



	3	3	5	3	2	1	2	1	6	5	3	2	3	1	-	0
	ヤ	マ	ニ	キ	ク	ノ	ニ	キ	ク	サ	ト	ニ	キ	ク		
	や	ま	に	さ	く	の	に	さ	く	さ	と	に	さ	く		
	ヤ	マ	デ	ナ	ク	ノ	デ	ナ	ク	サ	ト	ド	ナ	ク		

● のあそび (讀本卷五)

春がきた。春がきた。

どこに、きた。

山に、来た。野に、来た。 さとに、来た。

二 花がさく。花がさく。

どこに、さく。

山に、さく。野に、さく。 さとに、さく。

三 鳥がなく。鳥がなく。

どこで、なく。

山で、なく。野で、なく。 さとで、なく。

た り ゑ

ハ調二拍子

1. 1 1 3 | 2. 1 2 3 | 5. 5 3 5 | 6. 0

一 イー マ ハ イツ ガ シ ク ウ エ ド キ

二 これ から た び た び た ぐ さ と り

1. 1 2 1 | 6. 6 5 3 | 2. 2 3 2 | 1. 0

コ コ デ ハ ウー マ ニ ク ナ ス カ セ

し だ い に て か す が ふ え て い く

2. 2 1 2 | 5. 5 3 5 | 6. 6 3 5 | 6. 0

ソ コ デ ハ ナー ヘ ナ ク ニ ウ エ ル

ど う ぞ あ き ま で つ ご よ く

1. 1 2 1 | 6. 6 5 3 | 2. 2 3 2 | 1. 0

ス カ セ ル ウー エ ル イツ ガ シ ヤ

て ん き も つ づ け あ め も ふ れ

● たりゑ (讀本卷五)

一 いまは、いそがし たりゑどき。

ここでは、馬に、 田を、すかせ、

そこでは、苗を、 田に、うゑる。

すかせる。うゑる。 いそがしや。

二 これから、たびたび、 田草とり。

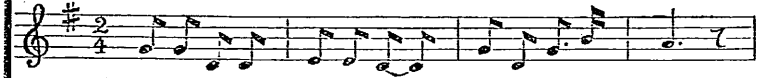
しだいに、てかすが、 ふえていく。

どろぞ、あきまで、 つごよく、

天気もつづけ。 雨もふれ。

夕 立

ト調二拍子



1 1 3 3 | 6 6 5 5 | 1 3 1 3 | 2. 0

一 ミルマニ クモル アチイツ ラ
 二 またなる ひかるー そのうち に
 三 ツヅイテ ヒカルー ナルヒカ ル
 四 やーがて あめやみ そらはれ て



3 3 5 5 | 3 3 1 1 | 2 2 1 2 | 3. 0

ヒカヒカ ヒカルー イナヒカ リ
 このはを うつてー やねうつ て
 アーメハ ズンズン ヒドクナ ル
 いーつか ひがでて にじがで て



3 3 3 3 | 2 2 5 3 | 3 3 0 2 2 0 | 1 1. 0

ナリダス カミナリ ゴロ ゴロ ゴロ
 ふりだす おほあめ ばら ばら ばら
 ノキバニ アマダレ ホチ ホチ ホチ
 くさきに しづくが きら きら きら

● 夕 立 (讀本卷五)

一 見るまに、くもる 青い空。

ひかぴか、ひかる いなびかり。

なりだすかみなり、

ごろごろごろ。

二 また、なる、ひかる、そのうちに、

木のはをうって、ⁿ屋根うって、

ふりだすおほあめ、

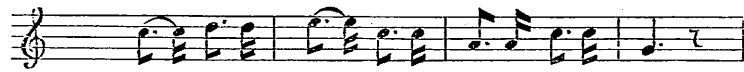
ばらばらばら。

元 寇

ハ調二拍子



一 5. 5. 5. 5. | 3. 3. 5 | 6. 5 6. 1. | 2. 0
 イマカラ ムカシ ロッピク ネ
 二 わがにっ ぼんの ぶしはみ な



一 1. 1 2. 2 | 3. 3 1. 1 | 6. 6 1. 1 | 5. 0
 コーロハ コーアン ヨンノナ ッ
 おのれ にっくき げんぐん め



一 3. 3 3. 3 | 5. 3 2. 1 | 2. 2 1. 2 | 3. 0
 ゲンノー クニカラ ソガクニ ニ
 にっぼん だんヒの うでみよ と



一 5. 5 3. 5 | 6. 6 5. 5 | 5. 1 2. 3 | 1. 0
 ヨセクル テキハー ヴェーヨマン
 すすんで てきを やぶりたり

三 つづいて、光る なる、光る。

雨は、だんたん、ひどくなる。

のきばのあまだれ、

ほちほちほち。

四 やがて、雨やみ、空はれて。

いつか、日が出て、にじか出て、

草木に、しづくが、

きらきらきら。

●元寇 (讀本卷六)

一 今からむかし、六百年、

ころは弘安四年の夏、

元の國から、わが國に、

よせたるてきは十餘萬。

二 わが日本の武士は、みな、

「おのれ、につくき元軍め、

日本男子のうで見よ。」と、

すすんで、てきをやぶりたり。」

三 このとき、大風ふきあれて、

なみは、山より、まだ、高く、

てっかん、四千、くつがへり、

こはれて、海にしづみたり。」

四 あゝ。元軍の十餘萬、

にげたるものは、わづかにて、

あとは、のこらず、わが國の、

海にしづみてしまひたり。」

としのくれ

ニ調四拍子



1-1 3 | 5 5 6 5 | 3 3 2 1 2 | 3- 0

一 ハナガ サイクト イフウチーニ
二 はちり しもふり 雪ふりて



2-5 5 | 3 3 1 1 | 2 2 2 3 2 | 1- 0

イツカ ノヤマガ アチクナーリ
しろく なりたり やまのみね



3-2 1 | 3 3 5 5 | 6 6 6 1 6 | 5- 0

アツイ アツイト イフウチーニ
あーこん げーつは ヒーにがーつ



6 6 5 | 3 3 1 1 | 2 2 2 3 2 | 1. 0 ||

イツカ コノハガ アカクナール
あーもう けふーは はつかすーぎ

● としのくれ (讀本卷六)

一 「花がさいた。」と

いつか、野山が

「あつい、あつい。」と

いつか、木のはが

いふうち

青くなり、

いふうちに、

あかくなる。」

二 「はちり、しもふり、

白くなりたり、

あー。 今月は

あー。 もう、けふは

雪ふりて、

山のみね。

十二月。

二十日すぎ。」

北白川宮

～調四拍子

	5̣. 5̣ 5̣ 5̣ 1 1 1 1 2. 2 1 2 3- 0
メ イ ナ ノ	= マ ヨ - ハ チ ネ ン =
ち - ー ど	ろ く が つ し ち が つ の
	5̣ 5̣ 5̣ 5̣ 3̣ 3̣ 1 1 2. 2 2 2 5- 0
タ イ ワ ン	ト - = - オ コ リ タ ル
あ - つ さ	き び し き そ の う へ に
	6̣. 6̣ 6̣ 6̣ 1 6̣ 5̣ 5̣ 1. 1 2 2 3- 0
ワ ル モ ノ	ド モ ナ - シ ヅ メ ン ト
み - づ は	す く な く し く た ら す
	5̣. 5̣ 5̣ 5̣ 3̣ 3̣ 1 1 6̣. 6̣ 6̣ 6̣ 5- 0
キ タ シ ラ	カ ハ ノ - ミ ヤ デ ン カ
や - ま は	け は し く み ち わ る し

三

十日たたぬに、

花が、また、さく

四年生にも、

なまけることが

四

ことしは、すこし、

もう、來年は、

雨がふっても、

休みはせんぞ。

としもとり、

四月には、

ぼくは、なる、

できはせんぞ。

休んだが、

休まんぞ。

さむくても、

せい出すぞ。

北白川宮

(つぎ)

3. 3 3 3 | 2 2 1 1 | 2. 2 3 3 | 5-0 |
 オホクノ グンツン ヒキツレ テ
 いくさに つよきー ぐんじん も

6. 6 6 6 | 5 5 1 1 | 2. 2 3 2 | 1-0 ||
 イサンテ オイデー ナサレタ リ
 このなん ぎにはー よわりた り

● 北白川宮 (讀本卷六)

一 明治の二十八年に、臺灣島におこりたる

わるものどもをしづめんと、

北白川宮殿下、

多くの軍人ひきつれて、勇んで、おいでなされたり。

二 ちよーど、六月、七月の 暑さきびしき、そのうへに、

水はすくなく、食たらず、山はけはしく、道わるし。

いくさにつよき軍人も、このなんぎには、よわりたり。

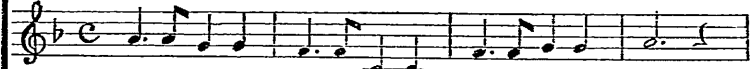
三 宮はなんぎをいとはれず、軍人どもをはげまして、

すすんで、せめてわるものを、おほかた、おしづめなされしに、

ふと、御病氣にかかられて、をしやおおくれなされたり。

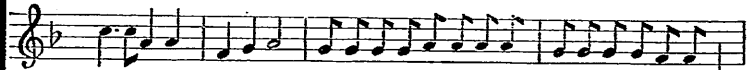
春の遊

へ調四拍子



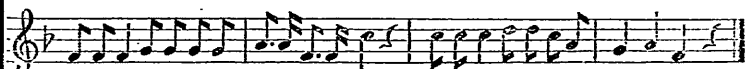
3. 3 2 2 | 1. 1 5̣ 5̣ | 1. 1 2 2 | 3- 0 |

一 オニハニ モモガ サイアキル
 二 こやまに さくらが さいてぬる
 三 ノハラニ スミレが サイテキル



5. 5 3 3 | 1 2 3- | 2 2 2 2 3 3 3 3 | 2 2 2 2 1 1 5̣ |

オニハノ サキテ ランナノコドモが マリツキアソビ
 こやまの うへで なとこのこどもが へいたいあそび
 ノハラノ ナカデ ミンナガイツジョニ オニゴトアソビ



1 1 1 2 2 2 2 | 3 3 1 1 5̣ 0 | 5 5 5 6 6 5 3 | 2 3 1 0 ||

マリナククオト ボンボンボン カズチヨムコエ セーゾーミー
 らつばふくおと とてちてた かけるごーれい 一 二 三
 オニチキメルヨ ジャンケンボン セナカタタクヨ トン!トン

● 春の遊 (讀本卷七)

一 お庭にはに、桃がさいいてゐる。

お庭にはのさきで、

女の子どもがまりつきあそび。

まりつく音、ぼんぼんぼん。

かずをよむこゑ、ひー、ふー、みー。

二 小山に、櫻がさいいてゐる。

小山の上で、

男の子どもがへいたいあそび。

らつばふく音とて、ちて、た！

かけるごーれい、一、二、三。

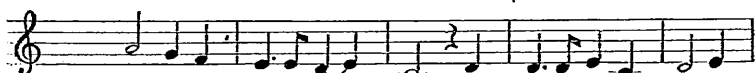
日本の景色

ハ調四拍子



1 | 1.3 2 1 | 6-5 5 | 1̇-7 6 | 5-0 3 | 2.1 2 3 |

一 = ホンノク = ハウ ミノク = オ ホシマコ
二 に ほんのく に はや まのく に お ほたきを



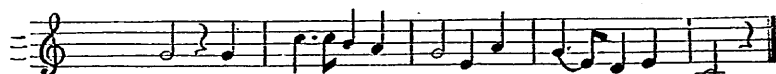
6-5 4 | 3.3 2 3 | 1-0 2 | 2.2 3 1 | 2-3

ソ マツ ノナカ- ナ カ ヨフシラ ホノ
が はた にあひ- に お ちてなが れて



5 | 4.3 2 3 | 5-0 5 | 1̇.1̇ 7 6 | 5-3 3 | 2.1 2 6 |

オ モ-シロ ヤ ミ サキイリ ウミツ ノ-フチ
お も-しろ や お てらおや しろき の-あひ



5-0 5 | 1̇.1̇ 7 6 | 5-3 6 | 5.3 2 3 | 1-0 ||

= ナ ラブマツ ノキオ モ-シロ ヤ
に み えてかく れてお も-しろ や



三

野原に、すみれがさいてゐる。

野原の中で、

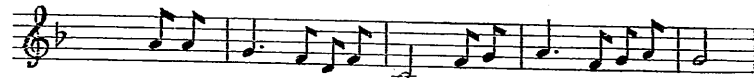
みんなが、いっしょに、おにごとあそび。
おにをきめるよ。「じゃんけんぽん」。
せなかたたくよ。とん、とん、とん。

燈 臺

へ調三拍子



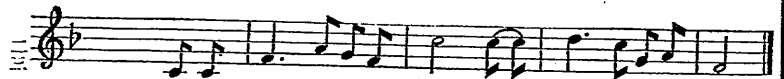
5̣ 5̣ | 1. 3 2 1 | 5̣- 5̣ 5̣ | 6. 5 3 1 | 2-
 一 ツラ ニ ツキナ ク ホシ サ へナク テ
 二 きし に みさき に と だ いあり て



3 3 | 2. 1 6 1 | 5̣- 1 2 | 3. 1 2 3 | 2-
 イ ツ スン サ キ ス ラ ミ エ ザ ル ヨ ル ニ
 と は く お き ま で ひ か り て あ れ ば



5̣ 5̣ | 6. 5 3 5 | 2- 3 3 | 2. 1 2 3 | 5̣-
 オ キ ノ キ セ ン ヤ グ ン カ ン ナ ド ハ
 お き の き せ ん や ぐ ん か ん な ど は



5̣ 5̣ | 1. 3 2 1 | 5̣- 5̣ 5̣ | 6. 5 2 3 | 1-
 ナ ニ ナ メ ア テ ニ コ ー プ ナ キ ャ ル
 そ れ を め あ て に こ ー ろ を き び る

●日本の景色 (讀本卷七)

一 日本の國は海の國。

大島、小島、その中を

通ふ白帆しろほのおもしろや。

岬みさき、入海、そのふちに、

ならぶ松の木おもしろや。

二 日本の國は山の國。

大瀧おほたき、小川、谷あひに、

おちて、流れて、おもしろや。

お寺、お社、木のあひに

見えて、かくれて、おもしろや。

新聞紙

へ調二拍子



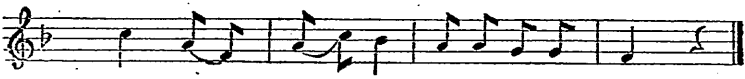
一 トカイノコトモキナカノコトモ
二 カジがおほいぞぬすとがわ
三 ヒトニシラレンゼンマモウツシ



一 センリアチラノタコクノコトモ
二 こはいびきかはやつてきた
三 カゲニカクレタアクマウツス



一 ヒトメデワカルシンブン
二 きをつけさせるしんぶん
三 カガミノヨ一ナシンブン



一 アーチャーホーナシンブン
二 わしんせつなしんぶん
三 アーアキラカナシンブン

二五

● 燈臺 (讀本卷七)

- 一 空に、月なく、
一寸さきすら
沖の汽船や
なにをめぐあてに、
岸に、岬に、
遠く、沖まで、
沖の汽船や、
それをめぐあてに、
きめし航路を
浅瀬、暗礁
さはることなく、
あゝ。燈臺の
- 二 星さへなくて、
見えざる夜に、
軍艦などは、
航路をきむる。
燈臺ありて、
光りてあれば、
軍艦などは、
航路をきむる。
進みて行けば、
数ある海も、
渡るをうべし。
貴きことよ。
- 三

軍 人

ハ調四拍子

1 1 3 2 1 | 5 . 6 5 0 | 3 3 5 3 1 | 2 . 3 2 0

一 軍 刀 シモノ - ゴ ト ク 弾 丸 アラレニ ニ タ ヲ
二 大 砲 そに - ひ び き 水 雷 うみに と ど る く

6 . 6 i i | 7 . 6 5 0 | 3 3 6 6 | 5 5 1 0

陸 戦 イ マ ナ カ バ ヤ マ クロキ カハラフ
海 戦 い ま な か ば か せ おと り なみさわぐ

2 1 2 3 2 3 | 5 3 5 6 5 6 | i 6 i 2 i | 6 6 5 5 | 3 5 3 1

ニッポンジヤン インチチヤシマズ チニキノコロ イハヨリカヨシ レッパモツサメ
にっぽんじん いのちをします ちのこころ いはよりたし へびをさへて

2 1 2 3 2 3 | 5 5 3 5 | 6 . 6 5 6 | i i 6 . 5 | i 2 1 -

ヤカハフミコエ ススムヨ ススムヨ 敵陣メガ ケーテ
しなみかたてて すすむよ すすむよ 敵艦めが リーテ

●新聞紙 (讀本卷八)

- 一 都會の事も、田舎の事も、千里あちらの、他國の事も、一目で、わかる、新聞紙。
あー。ちよーほーな 新聞紙。
- 二 火事が多いぞ。ぬすとがあるぞ。こはい病氣がはやって来た。と。氣をつけさせる 新聞紙。
あー。しんせつな 新聞紙。
- 三 人に知られん 善事もうつつし、かげにかくれた 悪事もうつつ、鏡のよーな 新聞紙。
あー。明かな 新聞紙。

わが帝國

ニ調四拍子

セカイニ マタナキ リガクニ ガラヨ
 ノハラチ ナガルル カハノゴ トクニ

タメシモ アラス メイヂノ ミヨヨ
 ススミテ ヤマス メイヂノ ミヨヨ

クモマニ ソービニユル ヤマノゴ トクニ
 アーワガ クーニハニ ヨキクニ ガラヨ

ウゴカズ カハラヌ リーガーニ ガラヨ
 メイヂノ ミヨハニ サーカーニル ミヨヨ

●軍人 (讀本卷八)

一 軍刀霜のごとく、
 陸戦、今、なかば。
 彈丸霰ににたり。
 山動き、川ふるふ。

二 列をもくづさず、
 進むよ、進むよ、
 大砲、空に、ひびき、
 海戦、今なかば、
 日本軍人命ををします、
 忠義の心いほより、かたし。
 山、川ふみこえ、
 敵陣めがけて。
 水雷、海に、とどろく。
 風おこり、波さわぐ。

日本軍人命ををします、
 忠義の心、いほより、かたし。
 へさきそろへて、
 進むよ、進むよ、
 白波けたてて、
 敵艦めがけて。

●わが帝國（讀本卷八）

世界に、またなき、わが國柄よ。
 ためしもあらぬ、明治の御代よ。
 雲間に、そびゆる山のごとくに、
 動かず、かはらぬ、わが國柄よ。
 野原を流るる川のごとくに、
 進みてやまぬ、明治の御代よ。
 あゝ。わが國はよき國柄よ。
 明治の御代はさかゆる御代よ。

定國小學讀本唱歌下卷尋、四、常、年、用、科、終

尋讀唱歌

定價 上卷金十二錢
下卷金十二錢

明治卅八年五月廿五日印刷

明治卅八年六月一日發行

編輯者 吉田信太

發行者 東京市京橋區柳町五番地 櫻井庄吉

印刷所 東京市京橋區弓町二十四番地 三協合資會社

發行所 東京市京橋區柳町五番地（電話本局三千番） 郁文舎

廣島高等師範學校教師 吉田信太作曲
廣島高等師範學校教師 原 藤藏作技

(近刊)

定 國
小學讀本

唱歌 尋常科
遊戯 高等科

全壹册
全壹册

本書は此書の歌曲及び之に伴ひたる遊戯其他嶄新にして趣味津津たる競技行進等數十技を記述せられたるものにして唱歌の師とし遊戯の友として児童教養の職にゐる者は必ず座右に供ふ可き良書なり

従來唱歌遊戯の書多しと雖とも多くは其動作複雑煩にして最も其の肯綮に中れるもの極めて尠く之を課せらるゝも児童は忽ちにして嫌厭し遂に其効果を得ずして終るを常とす之れ幼少なる児童に複雑なる動作を強ゆるものにして其記憶に苦ましめ精神を過用し生理に反する所以なりとす

本書は深く茲に留意し理論に基き實際に鑑み嶄新にして趣味ある材料を以て作技し數十葉の圖を挿入し綿密懇切に説明せられたるのみならず其目的効用及び教授の注意等各技に理論を附記せられたる書にして斯道の好伴侶たる恐らく此書に過ぐるものなからん希ふ一讀其價を評せられん事を

